

第7回 昭和の森親子田んぼ教室

稲刈り

花島 伸美 (千葉市)

日 時：2018年9月16日(日)9:30~12:00 天候：曇りのち雨

参加者：32名 (大人17名、子ども15名、13家族)

担当指導員：佐野由輝、山下美佐子、山田益弘、岡田敬子、花島伸美

ビオトープの会：西川章 千葉市緑公園緑地事務所長

いよいよ、親子田んぼ教室の稲刈りである。6月24日の草取り以来久しぶりの再会である。田んぼに着くと黄金色の稲穂の前で、ビオトープの会の西川さんから鎌の使い方の指導を受ける。「間違えて一番痛い思いをするのは自分だから、気をつけて！」の言葉に子ども達は真剣な顔つきになる。稲を刈り、それを運び、稲10株を紐で束ねて稲架掛けする。その作業を参加者で協力しながら行うのだ。一家族に鎌一本もらい3班に分かれて田んぼに入る。田んぼは水を抜いていないのでぬかるんでいる。「鎌の持ち方が違っているよ！」と注意されながら、始めのうちは一回で切れなかった稲も、だんだんスパッと上手に刈れるようになってきた。田んぼの畔はだんだんと刈った稲で埋まっていく。稲架掛けの竿は斜面の上の方なので、その斜面を何往復もしながら掛けていくのだが、次第にバケツリレーのようにお互いに声を掛け合いながら、稲束を渡す協力態勢ができた。田んぼの周囲は見る見るうちに刈った稲で覆われるようになった。それを見て、大人も子どもも「仕事をした！」という実感を持ち、笑顔で写真撮影。その後雨が降り出したため、田んぼの生き物の観察は希望者のみとなった。



事後のアンケートの結果、田植え、草刈、稲刈りのうち一番印象に残ったのは稲刈りで、皆良い体験ができたと満足されていた。今回一つの稲束を子どもに数えてもらったところ、10株のうち米が付いている稲穂が176本。1本68個の米粒があり、 $176 \times 68 = 11,968$ 粒。ご飯茶碗1杯が子ども用：2,000粒。大人用：3,000粒。10株で、子ども用茶碗約6杯分。大人用約4杯分となる。収穫量は親子田んぼ教室の田んぼで129束、ビオトープの会の田んぼで353束なので、合計で約480束。5,744,640粒の米。ということになる。米1,000粒が22gなので、126kgの収穫。それを脱穀、糊摺り、精米という手順を踏んでいくと重さが3割減って88.4kgになる。1票60kgなので約1.5俵の収穫となる。日本人の米の年間消費量が昔は1.5俵だったが、現在は1俵に減っている。つまり、今年の昭和の森の田んぼの収穫量は大人一人が約1年半食べる量ということになる。今年も豊作で親子田んぼ教室は締めくくれた。